

新宮山彦ぐるーぷ第2210回

稚児之森東の地蔵祠取替と宝冠の森

◇実施日 11月27日(日) 晴

◇参加者 沖崎吉信、児嶋道夫、濱野兼吉、中前偉、大江加予子・

徳子、畑林清子、生熊千満子、湯川一郎、西克、高階

鈴子・美根子、梶野照雄、高橋桂太、由井洋三

15名

南奥駆道の春季巡視の際、稚児之森そばの祠があまりにもみすぼらしいので、児嶋さんが採寸して新しい祠を作ってくださいました。桧造りの本格的な祠で、屋根は松本さんによるこれも本格的なものだ。



立派な祠



錆びついた祠



石像を出す

朝9時前に村道の奥駆道案内板前に集合、祠や工具などを車から降ろして、各自分担して交換場所まで運ぶ。

交換場所までは近く、10分ほどで到着する。

祠には地蔵の石像が入っている。中前さんがお経をあげた後、石像を取り出し脇の地面に置いた。石像は安政六年(1859年)三月と記載があり、前面には左へたまき、右へとつかわ、と彫られて道標も兼ねているようだ。160年ほど前の物だが、表情は現代の石像と大差ないように見える。



祠交換

開眼供養

本日の参加者

錆びついた祠を取り除き、土台の水平を見て新しい祠を据え付ける。土台のコンクリート板と祠を4カ所で繋いだり、少し不安があるので、裏側に一ヶ所ステーを取った。下部の石が比較的大きいので、後日石にアンカーを打って祠を固定する予定だ。周辺を掃除し、祠の前に檜一対やローソク、御供のお菓子やミカンが置かれ、開眼供養を行う。法螺の音が響き渡り、全員が手を合わ

せ線香を供えて交換作業を終えた。

稚児之森のコンクリート製祠も地藏像が入っていた。こちらの石像はコンクリートで固定されており、取り出すことが出来ないため詳細は不明だ。

交換作業は50分ほどで終わったので、宝冠の森へ向かう。当初は卯月山に標識設置予定だったが、19日に設置済で、卯月山に向かう必要が無くなったため、めったに行かない宝冠の森を訪問することになった。



稚児之森の祠

世界遺産石碑横から

勸業木記念碑前で

世界遺産石碑まで車で移動して、木製の展望台横から玉置山の捲き道を進む。かつえ坂を登らず、玉置山山頂を経由せずに玉置神社に向かう形になる。

20分ほどで勸業木記念碑に着く。ここで道は玉置神社、玉置山山頂、宝冠の森へと三つに分かれている。道標の文字は消えてしまっ

で宝冠の森方向に進む。



クサリ場を下る

宝冠の森に着く

笠捨山

最初のクサリ場までは順調に歩くことが出来たが、一番長いクサリ場で生熊さんと児嶋さんが残り、他の13名が先へ進んだ。

このコースが初めての人が多く、湯川君が先に降りて足の置き場所などを指示、一人ずつ慎重に通過した。

二つ目、三つ目のクサリも無事に通過し12時過ぎに宝冠の森に着いた。宝冠の森先からは、甲森や大森山、笠捨山等がよく見え、行仙岳の旧無線中継局舎も確認する事ができた。

宝冠の森で昼食を摂り、来た道を引き返す。気温はそんなに低くは無かったが風が強くて寒さを感じていた。しかし登り返しが続いたので少し汗ばんできた。

勸業木記念碑まで戻り、生熊、児嶋の両名と合流、玉置山山頂へ向かう組と車まで戻る組に分かれて歩き始めた。

世界遺産石碑に戻って、玉置神社の駐車場へ向かう。駐車場の8

割位は埋まっていた。玉置山山頂組を待つ間に売店の栄山さんを訪ねると、「奥駈道の手拭がよく売れて在庫がない。青木さんに連絡してほしい」と言われ、沖崎さんがすぐに電話して伝えた。



一人ずつ登る

村道に戻る

交換した祠の場所

玉置山山頂組も戻り、沖崎さんから次回の持経宿・平治宿巡回整備や秩父宮記念山岳賞、あしたの奈良表彰の話があり、解散した。

(記；梶野)

行動タイム

奥駈道案内板 08:55→09:08 地藏祠 09:56→10:02 稚児之森→10:13 奥駈道案内板→10:26 世界遺産石碑→10:55 勸業木記念碑→12:15 宝冠の森 12:45→13:50 勸業木記念碑→14:20 世界遺産石碑→14:35 玉置神社駐車場